

■学校経営のポイント

今こそ、3育「知育・徳育・体育」の充実へ

小島 宏

新型コロナウイルスの感染防止に向けた対応が続いている。学校も引き続き子どもたちのために冷静に、適切に対応していきたい。

そして、このような時だからこそ、基本である3育「知育、徳育、体育」について見直し、教育活動の充実策を具体的に考え、実施していきたい。

学校教育の目標の確認

学校教育は、教基法第1条(教育の目的)及び第2条(教育の目標、具体的には第1～5項)、学教法第21条(義務教育の目標、具体的には第1～10項)の達成を目指して行われるものである。

知育の充実に向けて

知育とは、各教科等の学習を通して知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学びに向かう態度の涵養を目指す教育である。

そこで、問題解決学習や体験活動を重視するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現へ授業をさらに工夫・改善し、充実させることが求められる。

また、授業の中で、子どもの学習状況や反応に応じて「指導と評価の一体化」を具体的に進め、確かな理解と深い学びを実現するようにしたい。

さらに、充実した国語(日本語)指導を進めた上で外国語指導を効果的に進めることが求められる。

これまでに積み上げてきた実験・観察、見学、体験・実演、読書、作文・レポートなどの指導についても継続していく必要がある。

最近強調されている情報活用能力(操作技能、問題解決に向けた情報の収集・整理、評価・判断、活用、創造・発信、情報モラル等)の育成、教育活動におけるICTとAIの活用についても、「体験」や「フェイスマス・フェイスマス」、「手作り」などの調和に配慮しつつ実践していきたい。

徳育の充実に向けて

徳育とは、道徳科の授業を要とした全教育活動の中で子どもたちの豊かな心を育む教育である。

そこで、各教科等の目標達成と協働学習とともに、教師の意識向上を図り、道徳科の授業、特に問題解決学習や体験学習の充実が不可欠である。

また、新型コロナウイルスに係わる偏見・差別、社会正義、いじめなどについて丁寧に扱いたい。生徒指導や指導要録の「行動の記録」の各項目と関連させて指導すると効果的である。

その際、社会や生活に見られる悪い現象だけでなく、良い面や行いも紹介し、よりよい生き方を主体的に求められるよう工夫することが重要である。

そして、大人や教師は子どもにとって道徳性、特に道徳的実践意欲と態度のモデルであることを自覚して、感じ、考え、行動することが求められる。

体育の充実に向けて

体育とは、体育科及び保健体育科の身体運動や保健学習を通して心身の健全な発展を促し、生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する営みである。

近年の子どもの体力の低下、薬物使用や生活規律の乱れなどを踏まえ、体力増進とともに健康に関する指導の充実が期待されている。

保護者や地域、諸機関との連携

3育は、学校教育を通じて実施するものであるが、より効果的に進めるためには、保護者・地域・諸機関との連携・協力が必要である。学校は可能な限り情報を発信し、理解を得て、ともに子どもを育むパートナーとしての関係を構築したい。

(こじま・ひろし=元東京都立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●感染症、SNSトラブルから、防災・防犯まで! 《好評発売中!》

A4・1枚 学校危機管理研修シート 123

【編著】矢崎良明 B5判/定価(本体 2,400 円) + 税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

